

## 県立高校入学者選抜制度の見直しを求める意見書（案）

県教育委員会は、このたび平成30年度の県立高校入学者選抜制度から、外部試験である実用英語技能検定（英検）3級以上の取得者に対し、級に応じた点数を外枠で加点配点する方針を決めた。

英語教科だけに英検の加点制度を設けることは、英語教育偏重とも受け取れる教育姿勢である。しかも、英検の2級、準2級は、中学校では習わない高校卒業、高校中級程度とされる内容であり、その取得者に加点することは、高校入試が中学校での学習を反映するという大原則に反するとともに、資格取得のための塾通いを奨励することとなり、家庭の経済的理由や地理的理由などによる学習機会の格差を拡大させることにつながりかねない。また、教育現場で対応が必要となることも多く、教員の多忙化に拍車をかけることは明らかである。

そもそも義務教育課程は、子どもたちが人生を送るための土台となる力を醸成する学習が目的であるにもかかわらず、今回の入試制度改革により、受験目的、資格取得目的の勉強が強要されるようになることも危惧される。

このように多くの課題があり、福井県義務教育の根幹を揺るがし県の将来にも大きな影響を及ぼしかねない制度改革にもかかわらず、議会への説明もなく、県教育委員会のトップダウンで教育委員会内部関係者による検討のみで拙速に決定されたことは極めて問題であり、到底認めることはできない。

制度の導入を目前に控えたこの時期、生徒や保護者、教育現場においてはとまどいの声が高まり、県民の負託を受け県民の声を代弁する役割を持つ議会としては看過できない状況となっている。

このため、このような県民の声や現場の多くの教員の意見に真摯に耳を傾け、調査書における特記事項の一つとして英検取得者を評価できる制度とするなど、教育の機会均等の理念に基づく公平な制度への見直しを強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年7月11日

福井県議会